



徳島大学病院
病院長

西良 浩一

毎年2月4日は「世界対がんデー」です。この日は、世界中で人々ががんを正しく知り、支え合う社会を構築するため何ができるかを考え、行動を起こす日とされています。この日にあわせ、今回は当院がん診療連携センターの荻野センター長に「がんロコモ」について紹介してもらいます。



徳島大学病院
がん診療連携
センター長

荻野 広和

◎がんロコモについて

本年の世界対がんデーを迎えるにあたり、近年重要性が広く認識されるようになった「がんロコモ」についてご紹介したいと思います。

がんロコモとは、がんそのもの、あるいは治療の影響で、骨・関節・筋肉・神経などの運動器に障がい起き、立つ・歩くといった移動機能が低下した状態を指します。進行すると日常生活が不自由になり介護リスクが高まるだけでなく、治療選択、通院や治療継続の可否にも影響します。

このがんロコモは大きく3つのタイプに分類されます。

1つ目はがんによる運動器の障がいです。すなわち、骨腫瘍や骨転移など、がんが直接的に進み、骨折・麻痺などの障がい引き起こされる状態をいいます。2つ目はがん治療による運動器の障がいです。これは抗がん剤治療に伴う末梢神経障がい（手足のしびれなど）、放射線治療などで骨の脆弱性が高まることに伴う骨折、手術後の長期臥床により筋力低下が生じた状態をいいます。3つ目はがんと併存する運動器疾患の進行です。これは変形性関節症などの元々の運動器疾患が、がん治療を優先する中で悪化してしまう状態をいいます。

近年、治療法の進歩によりがん患者さんの予後は改善しています。がんと共に生きる期間が長くなるがゆえ、運動器機能を可能な限り維持することの重要性が高まり、がんロコモへの取り組みが進められるようになりました。痛みやしびれを「がんだから仕方ない」と諦めるのではなく、適切な薬剤や生活指導、リハビリ、時に手術や放射線治療などの専門的介入を行うことで症状を改善できるだけでなく、骨折や麻痺などの重篤な合併症を予防することが可能です。

日本整形外科学会では、がんロコモに詳しい医師を「がんロコモドクター」として位置づけ、相談窓口の整備を進めています。がん治療を担当する主治医に加え、整形外科、リハビリ、緩和ケアが連携し、「動ける」ことを守ることで患者さんの生活の質を保ち、円滑ながん治療の継続をサポートすることを目指しています。徳島大学病院と徳島県立中央病院で形成する「総合メディカルゾーン」の中核をなす「徳島がん対策センター」では、このがんロコモへの取り組みを積極的に推進しています。気になる症状があれば、電話相談（0888（6334）6442）へお気軽にご相談ください。

【広告】 第二広報 / 0888-6334-6442

徳島大学病院 がん診療連携センター

2月4日は
世界対がんデー



独立行政法人 国立病院機構
四国こどもととなの
医療センター
院長 前田 和寿
〒765-8507 香川県善通寺市仙遊町2丁目1-1
TEL 0877-62-1000 FAX 0877-62-6311

内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・胃腸内科・肝臓内科・糖尿病内科
外科・整形外科・リハビリテーション科・脳神経外科・放射線科・ペインクリニック外科・皮膚科

医療法人高川会
虹の橋病院
〒770-0052 徳島県徳島市中島田町3丁目60番地1
TEL 088-633-0800 FAX 088-633-6323
<https://www.nijinohashi.net/>

いきるを支える。
HITO 病院
社会福祉法人石川記念会HITO病院
〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町788番地1
TEL0896-58-2222 FAX0896-58-2223

医療法人平成博愛会
徳島平成病院
TOKUSHIMA HEISEI HOSPITAL
院長 丹黒 章
〒770-0926 徳島県徳島市伊賀町3丁目19-2
電話 088-623-8611

JA徳島厚生連
Yoshinogawa Medical Center
吉野川医療センター
院長 長町 顕弘
徳島県吉野川市鴨島町知恵島宇西知恵島120
TEL0883-26-2222

順不同